

## 令和4年度 第1回介護保険運営協議会 会議録（概要）

- 1 日 時 令和5年2月24日（金）午後1時15分から2時20分まで
- 2 場 所 三条市役所 第二庁舎 301 会議室
- 3 出席状況
- (1) 出席委員  
田中 吉明会長、佐藤 栄会長職務代理者、小嶋 嘉代子委員、  
宮島 健委員、近藤 鉄也委員、眞保 京子委員、石田 和紀委員、  
小林 弘美委員、鈴木 宏和委員、野村 正人委員、奥山 賢一委員（11人）
- (2) 欠席委員  
安室 久恵委員、石附 克也委員、長谷川 悦子委員、木戸 正史委員（4人）
- (3) 事務局職員  
高齢介護課 課長 村上 正彦、課長補佐 長田 高志、  
企画調整係長 小林 昌代、高齢福祉係長 榎本 孝仁、  
介護認定係長 力石 純子、介護保険係長 田辺 秀行、  
地域包括ケア総合推進センター主査 渡邊 晃代、  
高齢福祉係主事 渡辺 萌里、  
地域包括支援センター嵐南センター長 佐藤 光美  
地域包括支援センター東センター長 西丸 恵理子  
地域包括支援センター栄センター長 小柳 朋子  
地域包括支援センター下田管理者 佐藤 真奈美
- (4) 傍聴  
なし

## 4 議 事

- (1) 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の実施状況等について〔報告事項〕  
(事務局) 資料1について説明

～意見、質疑～

(佐藤委員) 7ページのフレイルチェックとはどのような内容か。

(事務局) 高齢者が普段の生活に関する質問項目に答えることで、自分のフレイル状態を確認することができるものである。フレイルとは、要介護状態ではないが、体の筋力や意欲が低下する状態のことを指す。

(佐藤委員) 8ページのGPSレンタルについて、助成額や利用者数を教えてほしい。

(事務局) 助成額は、GPS機器のレンタルの登録又は契約に掛かる手数料等に対して上限1万円、更に月額費用に対して月3千円を、課税世帯だ

と3か月分、非課税世帯は1年分助成している。利用実績は2件である。

(佐藤委員) 実績数が増えていないようだが、なかなか普及は難しいということか。

(事務局) 令和3年度から実施しており、令和3年度の実績は0件であった。令和4年度は2件の登録者となっているが、実際に利用して非常に良かったという感想をいただいているので、その感想をチラシなどで利用者の声として活用させてもらい、更に啓発を図りながら普及していきたい。

(佐藤委員) 普及の一つの方法として、体験利用できるようにしてはどうか。

(事務局) 本事業は、GPS機器レンタルの初期費用等を一人当たり2回まで助成し、気軽にGPS機器レンタルを試してもらうことを目的としている。体験利用してみたいという方がいれば、事業の利用を勧めていきたい。

(石田委員) フレイルチェックについて、対象者自身がチェックをした後、どのような対応をするのか。

(事務局) 地域包括支援センターの職員や市の保健師が集いの場などに同行してフレイルチェックを行い、結果をその場で共有している。集いの場別の集計結果は、支援者の参考資料として活用している。

(眞保委員) 集いの場でフレイルチェックを2回ほど実施したことがあるが、1回目と2回目の結果の比較はできるのか。

(事務局) 比較することはしていない。

(小嶋委員) 新型コロナウイルスの関係で、地域活動や包括の訪問などが制限されていたが、これからは制限が緩和されていく。地域での交流や、支え合い体制作りの促進のためには、地域と包括とのつながりがとても大事だと思う。これから地域の活動は重要性が一層高まっていくと思うので、今まで以上に地域包括支援センターの活動に力を入れて取り組んでもらいたい。

(宮島委員) 現在、病院より自宅で最期を迎えたい人が増えている。在宅医療の推進に対する市の考えを伺いたい。

(事務局) 在宅医療について、訪問診療や往診を提供する医療機関が増えることが最も望ましいと思うが、どこも人材不足で医師が不足しており、県央地区は特に少ないと言われている。医師を増やすことは市としては難しいが、在宅医療に取り組んでいる医師に対して、在宅医療提供体制の維持への支援やバックアップをするような仕組み作りができないか、検討している。ただし、市だけで動くことは難

しい問題であるため、医師会や医師の先生方の意見を聞きながら取り組んでいく必要があると考えている。

(石田委員) 1、2ページの表に記載されている65歳以上人口について、令和4年10月1日現在と12月末現在を比べると、100人以上減少している。第8期介護保険事業計画において、高齢者人口は令和3年度まで増加し、ピークを迎え、令和4年度以降減少傾向となると記載されている。資料の表の高齢者人口からも、令和4年度が転換期になっていると言えるのではないかと感じているが、どう考えるか。

(事務局) 第8期計画の策定時点では、令和3年度にピークを迎えると推計しており、御指摘のとおり、実績値では令和4年度に増加から減少に転換している。減少幅は大きいものの、概ね計画どおりと捉えている。今後、第9期計画の策定を進めていく中で、改めて推計を行い、今後の動向を確認していきたい。

(小嶋委員) なかなかケアマネジャーと連絡が取れないという話をよく聞くが、市内にどれくらいのケアマネジャーがいるのか。

(事務局) 市内にいるケアマネジャーは100人程度である。

(2) 第9期介護保険事業計画策定に向けた各種調査の実施について [報告事項]

(事務局) 資料2について説明

～意見、質疑～

(野村委員) 3ページについて、在宅介護実態調査の中で働き方の調整に関する質問項目があるが、働き方の調整の有無、今後の就労意向だけを聞くこの質問項目では、調整したくてもできずに切迫している実態が拾い切れないのではないかと。

(事務局) 実際の調査の設問は、単に、働き方の調整の有無や就労移行を訪ねるものではなく、主な介護者が不安を感じる介護の内容や今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスなどについても尋ねることとしており、介護者の不安や負担感などを把握できると考えている。

5 その他

(事務局) 今後の日程について、地域包括支援センター運営部会を3月末頃に予定している。詳細が決まり次第、改めて文書で案内させてもらう。